



kaminorippo.org

付録5e: 安息日の交通手段

このページは、第4の戒め「安息日」に関するシリーズの一部です:

1. [付録5a: 安息日と教会に行く日の違い](#)
2. [付録5b: 安息日を現代において守る方法](#)
3. [付録5c: 日常生活における安息日の原則の適用](#)
4. [付録5d: 安息日での食事 — 実践的な指針](#)
5. [付録5e: 安息日の交通手段 \(現在のページ\)](#)
6. [付録5f: 安息日におけるテクノロジーと娯楽](#)
7. [付録5g: 仕事と安息日 — 現実世界の課題への対処](#)

前回の記事では、安息日の食事について—準備、計画、必要性のルールがどのようにストレスの源を平和な時間に変えられるか—を考えました。今回は、同じ原則が現代生活で特に必要とされる別の分野、すなわち交通に目を向けます。現代の世界では、車、バス、飛行機、ライドシェアアプリによって移動は簡単で便利です。しかし第四の戒めは、立ち止まり、計画し、日常の労働をやめるよう私たちに呼びかけています。これが移動にどう適用されるかを理解することで、信者は不要な仕事を避け、日を聖なるものとし、真の休息の精神を保てるようになります。

なぜ交通が重要なのか

交通の問題は新しいものではありません。古代では、移動は仕事と結びついていました—荷物を運ぶ、家畜の世話、市場に行くなどです。ラビ的ユダヤ教は安息日における移動距離について詳細な規定を設け、歴史的に多くの敬虔なユダヤ人が会堂の近くに住み徒歩で礼拝に行ったのはこのためです。今日、クリスチャンも同様の疑問に直面します。安息日に教会へ行く、家族を訪ねる、聖書研究に参加する、病院や刑務所での慈善活動を行うなどです。本記事は、準備と必要性という聖書の原則が移動にどう当てはまるかを理解する手助けとなり、安息日にいつ・どのように移動するかについて賢く信仰に基づいた判断ができるように導きます。

安息日と教会出席

信者が安息日に移動する最も一般的な理由の一つは、教会の礼拝に出席することです。これは理解できることです—他の信者と集まり礼拝や学びをすることは励ましになります。しかし、このシリーズの付録5Aですでに確認したように、安息日に教会に行くことは第四の戒めの一部ではありません([記事を読む](#))。戒めは、仕事をやめ、日を聖とし、休むことです。聖書本文のどこにも「礼拝に行け」や「特定の礼拝場所に移動せよ」とは書かれていません。

イエスご自身は安息日に会堂に行かれました(ルカ4:16)が、これを弟子たちに義務として教えたことはありません。その実践は、集まることが許され有益であることを示していますが、規則や儀式を定めるものではありません。安息日は人のためにあり、人が安息日のためにあるのではないのです(マルコ2:27)。その核心は休息と聖性であり、移動や施設への出席ではありません。

現代のクリスチャンにとって、これは安息日を守る教会に出席することは任意であり義務ではないことを意味します。第七日に他の信者と集まることに喜びや霊的成長を見いだすなら自由にそうしてください。教会への移動がストレスを生み、休息のリズムを壊し、毎週長距離運転を強いるようであれば、家に留まり、聖書を学び、祈り、家族と過ごすことも同じように自由です。重要なのは、教会への移動を自動的な習慣にしてしまい、守ろうとしている休息と聖性そのものを損なわないことです。

可能な限り、礼拝に出席する場合は移動や準備が最小限で済むように事前に計画しましょう。近所の集会に参加する、自宅で聖書研究会を開催する、あるいは非安息日時間に信者につながるなどです。伝統や期待ではなく聖性と休息に焦点を合わせることで、神の戒めに沿った安息日実践ができ、人間が作った要求に従う必要がなくなります。

移動に関する一般的な指針

準備の日と必要性のルール原則は、交通にも直接当てはまります。一般に安息日の移動は避けるか最小限にするべきです。第四の戒めは、日常の労働をやめ、自分の支配下にある他者にも同じことをさせるよう求めています。毎週長距離を移動する習慣をつけると、神の休息の日を別のストレス・疲労・物流計画の日にしてしまう危険があります。

長距離を移動する場合は、安息日が始まる前か終わった後に旅を終えられるように計画しましょう。例えば、遠くに住む家族を訪ねる場合は、金曜日の日没前に到着し、土曜日の日没後に出発するようにします。これにより平和な雰囲気生まれ、慌ただしさや最後の準備を避けられます。安息日に正当な理由で移動が必要になると分かっている場合は、事前に車を整備し、燃料補給をし、ルートを計画しておきましょう。

同時に、聖書は慈善や憐れみの行為が安息日に許されることを示しています(マタイ12:11-12)。病院にいる人を訪ねる、病人を慰める、投獄された人に仕えるなどは、移動を必要とするかもしれません。このような場合は、できるだけシンプルに旅をし、社交目的の外出にしないようにし、安息日の聖なる時間を意識してください。移動を通常ではなく例外とすることで、安息日の聖性と休息を保てます。

自家用車と公共交通機関

自家用車の運転

安息日に自分の車やバイクを使うこと自体は禁じられていません。実際、家族訪問や聖書研究、慈善活動など短距離の移動に必要な場合もあります。しかし、慎重に行うべきです。運転には常に故障や事故のリスクがあり、それが自分や他人に回避可能な仕事をさせることにつながるかもしれません。さらに、燃料補給や整備、長距離移動は平日的なストレスや労働を増やします。可能な限り、自家用車での安息日の移動は短くし、車の準備(燃料と整備)を事前に行い、聖なる時間を妨げないようルートを計画しましょう。

タクシーとライドシェアサービス

これに対し、Uber、Lyft、JapanTaxi(ジャパntaxi)、タクシーなどのサービスは、安息日に誰かを雇って自分のために働かせることになり、第四の戒めの「他人に働かせない」という禁令(出エジプト記20:10)に違反します。これはフードデリバリーを利用するのと同様です。たとえ軽い、または時々 indulgence であっても、安息日の意図を損ない、あなたの信念について混乱したメッセージを送ります。聖書の一貫したパターンは、聖なる時間に誰かを働かせなくてもすむように、前もって計画することです。

公共交通機関

バス、電車、フェリーなどの公共交通機関は、タクシーやライドシェアとは異なり、あなたの利用に関係なく固定されたスケジュールで運行しています。そのため、特に礼拝への参加や慈善活動など、自分で運転する代わりに公共交通機関を使うことは許される場合があります。可能な限り、切符や乗車券は事前に購入し、安息日に金銭を扱うことを避けましょう。移動はシンプルにし、不要な寄り道を避け、移動中も敬虔な心構えを保ち、日を聖別するよう努めてください。